

群 教 セ	G11 - 04
	平23.243集

# 自主的、実践的な態度を育てる 委員会活動の指導の工夫

— キャンペーン活動に教師の適切な指導や

振り返りの工夫を取り入れて —

長期研修員 栗原 淳一

## 《研究の概要》

本研究は、委員会活動において、教師の適切な指導や振り返りの工夫を取り入れることで、生徒一人一人の自主的、実践的な態度を育てることを目指したものである。具体的には、全校で学校課題を解決するキャンペーン活動を設定し、話合いの視点を示した「話合いカード」や話合いの流れを示した「活動シート」を活用できるようにしたり、自己評価と相互評価を基にした振り返りを委員会と全生徒で共有できるようにしたりした。

**キーワード** 【児童会・生徒会 自主的、実践的な態度 委員会活動 話合い 振り返り】

## I 主題設定の理由

近年、都市化、少子高齢化、地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、家庭や地域社会において社会性を身に付ける機会が減少している。また、情報化の進展により、間接体験や疑似体験が膨らむ一方、体験活動や異年齢の子どものかかわりが減少し、望ましい人間関係を築く力などの社会性が身に付きにくくなっている。このような状況から、集団の中での問題に気付かなかつたり、その問題を自主的に解決できなかつたりする子どもが増えてきている。

平成20年の中央教育審議会答申では、特別活動の課題として「特別活動の充実は(中略)子どもたちの資質や能力の育成に十分つながっていない」「好ましい人間関係を築けないことや、望ましい集団活動を通じた社会性の育成が不十分である」点を指摘し、その改善の基本方針の中で、「特によりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視する」「体験活動や生活を改善する話合い活動、多様な異年齢の子どもたちからなる集団による活動を一層重視する」と記している。それらを受けて、中学校学習指導要領解説特別活動編では、特別活動の目標の中で、「集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度」の育成を挙げている。以上を踏まえ、群馬県教育委員会の平成23年度学校教育の指針では、特別活動の指導の重点として、各活動・学校行事のねらいを明確にして実施するとともに、活動後は育てたい資質や能力の育成につながったかという視点から振り返りを行うことが示されている。

ところが、これまでの委員会活動の取組では、他の委員会の活動について知る機会が少なく、生徒は委員会活動に対して関心が高くないことが多かった。また、委員会では活動自体が目的となっていたり、活動における評価が形式的なもので終わってしまったことが多かった。このようなことから、結果として、生徒の自主的、実践的な態度が十分に育っているとは言えない状況があった。自主的、実践的な態度を育てるためには、一人一人の生徒が課題を明確にとらえて活動できるようにしたり、課題に対する取組を正しく見つけ、次の活動への意欲をもてるようにしたりする必要がある。

そこで本研究では、委員会活動にキャンペーン活動を設定し、委員会に所属する生徒だけでなく、学校の生徒一人一人の自主的、実践的な態度を育てる指導について研究していくことにする。「つかむ」過程において、課題を明確にとらえて活動できるように、教師の適切な指導を行う。さらに、「振り返る」過程において、課題に対する取組を正しく見つけ、次の活動への意欲をもてるように、振り返りの工夫をする。

以上のことから、委員会活動にキャンペーン活動を設定し、教師の適切な指導や振り返りの工夫をすることが、自主的、実践的な態度を育てるために有効であると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

委員会活動にキャンペーン活動を設定し、課題を明確にとらえて活動できるようにするための教師の適切な指導を行ったり、課題に対する取組を正しく見つけ、次の活動への意欲をもてるようにするための振り返りの工夫をしたりすることで、自主的、実践的な態度を育てることができると実践を通して明らかにする。

## III 研究の見通し

委員会活動にキャンペーン活動を設定し、次のような見通しをもって意図的、計画的に指導を行えば、自主的、実践的な態度を育てることができると見られる。

- 「つかむ」過程において、委員会に所属する生徒に話合いの視点を示した「話合いカード」を活用してキャンペーンについての話合いを行えるようにすることで、生徒は、委員会の一員として、課題を明確にとらえて活動できると見られる。
- 「つかむ」過程において、全生徒に委員会での話合いの流れを示した「活動シート」を活用してキャンペーンについての内容を把握できるようにすることで、生徒は、学校の一員として、課題を明確にとらえて活動できると見られる。
- 「振り返る」過程において、委員会活動で自己評価と相互評価を基にした振り返りを行えるようにし、その振り返りを委員会と全生徒で共有できるようにすることで、生徒は、委員会や学校の一員として、課題に対する取組を正しく見つけ、次の活動への意欲をもてる見られる。

## IV 研究の内容

### 1 本研究で育てたい自主的、実践的な態度の具体的な姿とは

生徒会活動で育てたい「自主的、実践的な態度」とは、「生徒自ら目標をもち、学校や社会の一員としてよりよい学校生活へ貢献するための役割や責任を果たし、学校生活全体の充実・向上にかかわる問題について、みんなで話し合って協力して解決したり、集団や社会の一員としての自覚に基づき、学校や地域社会の生活の充実・向上に積極的に関わったりしていく」態度である。本研究では、委員会活動において、課題を明確にとらえて活動できるようにしたり、課題に対する取組を正しく見つけ、次の活動への意欲をもてるようにしたりすることで、生徒の自主的、実践的な態度の育成を目指す。そこで、本研究で育てたい自主的、実践的な態度の具体的な姿を明らかにするために、生徒の立場と活動内容から分類し、右の表を作成した(表1)。

表1 本研究で育てたい自主的、実践的な態度の具体的な姿(自作資料)

	自主的、実践的な活動	本研究で育てたい自主的、実践的な態度の具体的な姿
委員会の一員としての生徒	課題を明確にとらえて活動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら問題に気付いている</li> <li>・自ら目標をもっている</li> <li>・解決可能な問題かどうかを判断している</li> <li>・自ら解決方法を考えている</li> <li>・解決方法を深く考えている</li> <li>・自ら解決しようとしている</li> <li>・役割と責任を自覚して着実に実行している</li> </ul>
	課題に対する取組を正しく見つけ、次の活動への意欲をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら取組を正しく振り返っている</li> <li>・新たな活動への意欲をもっている</li> </ul>
学校の一員としての生徒	課題を明確にとらえて活動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を共有している</li> <li>・目標を共有している</li> <li>・自ら解決方法を選択している</li> <li>・自分の考えに基づき、解決方法を選択している</li> <li>・自ら解決しようとしている</li> <li>・役割と責任を自覚して着実に実行している</li> </ul>
	課題に対する取組を正しく見つけ、次の活動への意欲をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら取組を正しく振り返っている</li> <li>・新たな活動への意欲をもっている</li> </ul>

## 2 キャンペーン及びキャンペーン活動とは

本研究において、委員会に所属する生徒だけでなく全生徒の自主的、実践的な態度を育てるために、「キャンペーン活動」を設定する。「キャンペーン」とは、委員会の特色にあった学校生活の問題を解決するために、委員会が全生徒に協力を提案し、一定の期間を決めて学校全体で取り組む重点活動とし、「キャンペーン活動」とは、話し合いを行ったり、振り返ったりするなど含めて、キャンペーンにかかわる三つの過程「つかむ」「実践する」「振り返る」の一連の活動とする。

キャンペーン活動は、学校生活の充実を図ることができるだけでなく、その活動を通して、自主的、実践的に活動する機会とすることができる。

## 3 教師の適切な指導とは

本研究において、「教師の適切な指導」とは、「生徒が課題を明確にとらえて活動できるような教師の指導」ととらえ、次の二つを取り入れる。

### (1) 話し合いの視点を示した「話し合いカード」を活用した指導

#### ① 「話し合いカード」の三つの視点とその構造

委員会に所属する生徒が課題を明確にとらえて活動できるようにするためには、問題解決の視点をもって話し合いを行う必要がある。このことから、「話し合いカード」は、三つの視点「委員会の特色にあった学校生活の問題」「目指す学校の具体的な姿」「委員会と個での具体的な取組」で右のように組み立てる(図1)。

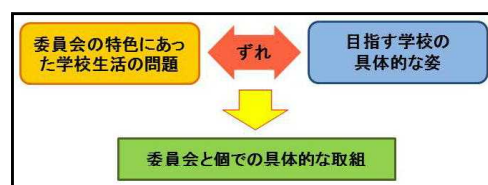


図1 「話し合いカード」の三つの視点とその構造

#### ② 話し合いの視点を示した「話し合いカード」の活用

委員会だけの取組ではなく、全生徒の協力も必要な場合があることを視野に入れて話し合えるようにするために、「話し合いカード」を提示し、キャンペーンの例を挙げて説明できるようにする。また、課題を明確にとらえられるようにするために、「話し合いカード」に沿って、「委員会の特色にあった学校生活の問題」を見だし、「目指す学校の具体的な姿」を決め、これらのずれに気付けるようにする。さらに、課題を具体的な取組につなげられるようにするために、各グループに「話し合いカード」を配付し、課題を解決するために全生徒の協力が必要かどうかを確認し、「委員会と個での具体的な取組」について話し合えるようにする。こうすることで、委員会に所属する生徒は、課題を明確にとらえて活動できるようになる。

### (2) 委員会での話し合いの流れを示した「活動シート」を活用した指導

#### ① 「活動シート」の三つの視点とその構造

全生徒が委員会から提示された課題を明確にとらえて活動できるようにするためには、委員会に所属する生徒と同様に、問題解決の視点をもって課題を共有する必要がある。このことから、「活動シート」は、委員会において、キャンペーンがどのような課題を解決するためにどのように計画されてきたのかが分かるように、委員会での話し合いの流れに沿って「話し合いカード」の三つの視点で組み立てる。

#### ② 委員会での話し合いの流れを示した「活動シート」の活用

委員会がどのような問題を取り上げ、どのように解決していきたいと考えているかを明確にとらえられるようにするために、委員会での話し合いの流れを示した「活動シート」を作成できるようにし、それを各学級で全生徒に配付し、委員長が全校放送でキャンペーンについての内容を説明できるようにする。さらに、課題を具体的な取組につなげられるようにするために、委員長の全校放送を聞きながら「活動シート」に示された個での取組の選択肢から自分で協力できる取組を自己決定できるようにする。こうすることで、全生徒は、課題を明確にとらえて活動できるようになる。

## 4 振り返りの工夫とは

本研究において、「振り返りの工夫」とは、「自己評価と相互評価を基にした振り返りを行えるよ

うにし、その振り返りを委員会と全生徒で共有できるようにすること」である。

(1) 「自己評価と相互評価」について

生徒が課題に対する取組を正しく見つけ、次の活動への意欲をもてるようにするためには、振り返りに客観性と信頼性を高める必要がある。そのために、自己評価と相互評価を行う。キャンペーン終了後、委員会に所属する生徒と全生徒が、委員会や全生徒の取組、学校全体としての達成度について評価を行い、それを集計した結果をグラフ化し、比較できるようにする。委員会に所属する生徒は、全生徒としても位置付けられるので、委員会に所属する生徒と全生徒は別の枠組ではないが、それぞれの立場から評価を行うために便宜上分け、評価の概要を右のように表す(図2)。

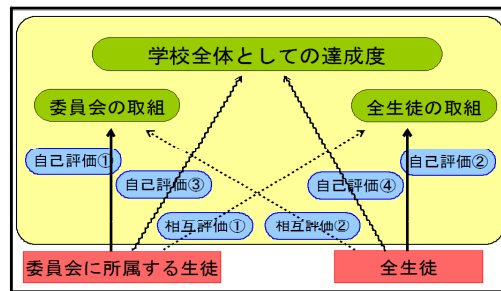


図2 評価の概要

注：自己評価①②は個（自分自身）の取組について評価する。(→)  
 相互評価①②は集団（委員会及び全生徒）の取組について評価する。(----->)  
 自己評価③④は学校全体の達成度について評価する。(~~~~~>)

(2) 「自己評価と相互評価を基にした振り返り」について

委員会活動では、グラフ化された評価を比較し、その共通点や相違点からキャンペーンを振り返れるようにする。さらに、委員会や学校の一員として今後どのように取り組んでいくとよいかを検討できるようにする。こうすることで、委員会に所属する生徒は、課題に対する取組を正しく見つめられるようになる。

(3) 「自己評価と相互評価を基にした振り返りを委員会と全生徒で共有できるようにすること」について

委員会で、キャンペーンの振り返りや生徒の感想などをまとめ、委員会新聞を作成できるようにする。その委員会新聞を各学級で全生徒に配付し、委員長が全校放送でこの委員会新聞の内容を説明できるようにする。こうすることで、全生徒は、キャンペーンについての振り返りを委員会と共有することができ、課題に対する取組を正しく見つけ、次の活動への意欲をもてるようになる。

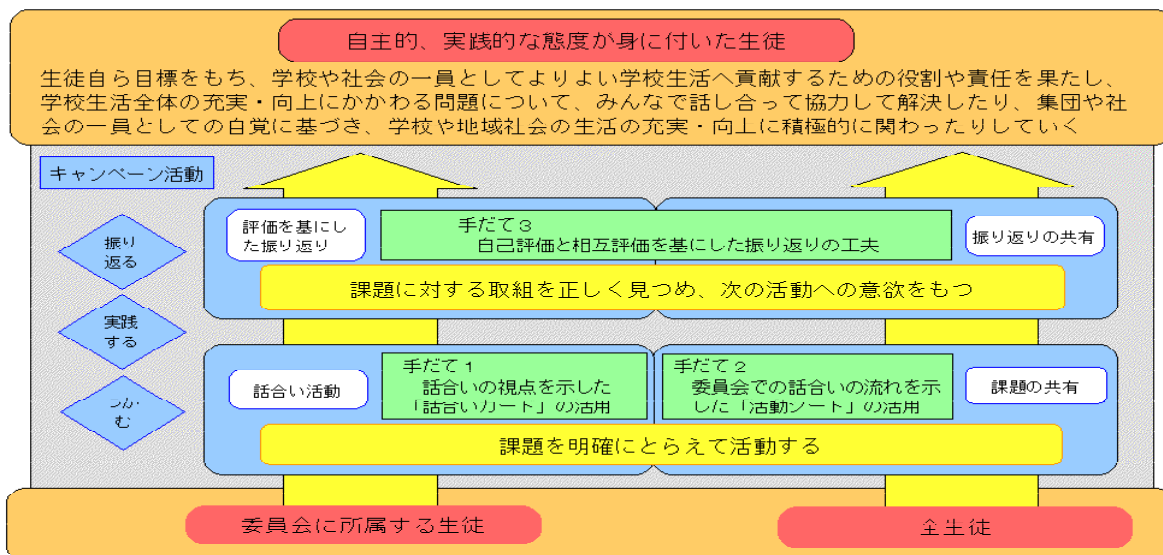


図3 研究構想図

V 研究の計画と方法

1 実践の概要

対象	研究協力校 中学校全校生徒 425名
教科等	特別活動（生徒会活動）
時期	平成23年10月14日～11月25日
授業者	長期研修員 栗原 淳一 研究協力校 職員 25名

## 2 抽出生徒

A	行事には前向きに取り組むが、当番活動などでは人任せな面も見られる。課題を明確にとらえて活動に取り組むことで、充実感を味わえるようにしたい。(委員会に所属する生徒から)
B	自己中心的で、自分の仕事でも嫌なことには取り組まないことがある。キャンペーンの有効性に気付くことで、次の活動への意欲をもてるようにしたい。(全生徒から)

## 3 検証計画

検証過程	検証の観点	検証の方法
見通し1 「つかむ」 過程	委員会に所属する生徒に話合いの視点を示した「話合いカード」を活用してキャンペーンについての話合いを行えるようにしたことは、生徒が、委員会の一員として、課題を明確にとらえて活動できるようにするために有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況の観察と聞き取り</li> <li>「振り返りカード」の記述</li> <li>事前、事後の意識調査の比較</li> </ul>
見通し2 「つかむ」 過程	全生徒に委員会での話合いの流れを示した「活動シート」を活用してキャンペーンについての内容を把握できるようにしたことは、生徒が、学校の一員として、課題を明確にとらえて活動できるようにするために有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況の観察と聞き取り</li> <li>「活動シート」の記述</li> <li>事前、事後の意識調査の比較</li> </ul>
見通し3 「振り返り」 過程	委員会活動で自己評価と相互評価を基にした振り返りを行えるようにし、その振り返りを委員会と全生徒で共有できるようにしたことは、生徒が、委員会や学校の一員として、課題に対する取組を正しく見つめ、次の活動への意欲をもてるようにするために有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動状況の観察と聞き取り</li> <li>「振り返りカード」の記述</li> <li>事前、事後の意識調査の比較</li> </ul>

## 4 委員会活動における評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
学校生活の充実と向上にかかわる諸問題に関心を持ち、他の生徒と協力して、自主的に委員会活動に取り組もうとしている。	委員会の一員としての自覚と役割意識を持ち、全校的な視野に立って諸問題を解決する方法などについて考え、判断し、協力して実践している。	委員会活動の意義や諸活動への参画の仕方などについて理解している。

## 5 キャンペーン活動の計画

過程	時	活動の内容		支援及び留意点 (○は教師、●は研究者)	委員会活動における目指す 生徒の姿と評価方法
		委員会	全生徒		
つかむ	事前	○学校生活アンケートの集計をする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>キャンペーンについての話合いが効果的に行われるように、学校生活アンケートなどをもとに、委員会の特色にあった学校生活の問題などを提示できるようにする。</li> <li>どのように話合いを進めていくかがあらかじめ分かるように、はじめに「話合いカード」を提示する。</li> <li>適切な課題を選択できるように、必要に応じて重要性、可能性などについて投げかける。</li> <li>●課題を明確にとらえて活動できるように、「話合いカード」でキャンペーンの例を挙げて説明し、話合いの視点に沿ってキャンペーンに</li> </ul>	[思考・判断・実践] <ul style="list-style-type: none"> <li>全校的な視野に立って諸問題を解決する方法などについて考え、判断している。</li> <li>[観察][振り返りカード]</li> </ul>
	1	○学校生活アンケート等の結果から、取り上げる問題と目指す学校の具体的な姿を決める(課題設定)。 ○課題を解決するために、キャンペーンにおいて委員会や全生徒がどんな取組をしていけば			

		よいかを「話し合いカード」に沿ってグループで話し合い、それを発表し、集団決定する。		ついでの話合いを行えるようにする。【見通し1】	
事後		○委員会の役員が作成した「活動シート」を全生徒に配布し、委員長が全校放送でキャンペーンについての内容を伝える。	○「活動シート」を見ながら委員会の全校放送を聞き、キャンペーンの内容を把握し、自分に適した取組を自己決定する。	●全生徒が委員会から提示された課題を明確にとらえて活動できるように、「活動シート」を配付し、委員長が全校放送でキャンペーンについての内容を伝えられるようにする。【見通し2】	
実践する					
振り返る	事前	○委員会の一員として、自分自身と全生徒の取組を評価し、さらに学校全体の達成度を評価する。	○学校の一員として、委員会と個での取組を評価し、さらに学校全体の達成度を評価する。	・キャンペーンについて振り返りやすくするために、事前に自己評価と相互評価の集計結果をグラフで提示できるようにしておく。	
	2	○委員会に所属する生徒と全生徒による自己評価と相互評価のグラフを比較し、分かったことを発表する。		●課題に対する取組を正しく見つめられるように、委員会活動で自己評価と相互評価のグラフを比較しながら振り返りを行えるようにする。【見通し3①】	【関心・意欲・態度】 ・キャンペーンについて振り返ろうとしている。 [観察][振り返りカード]
	事後	○キャンペーンについての委員会新聞を全生徒に配付し、全校放送で伝える。	○委員会新聞などでキャンペーンについての評価などを知り、取組を振り返る。	●課題に対する取組を正しく見つめ、次の活動への意欲をもてるように、委員会新聞や全校放送では委員会での振り返りを適切に伝えるだけでなく、それぞれの取組を認めていけるようにする。【見通し3②】	

## VI 研究の結果と考察

1 委員会に所属する生徒に話し合いの視点を示した「話し合いカード」を活用してキャンペーンについての話し合いを行えるようにしたことは、生徒が、委員会の一員として、課題を明確にとらえて活動できるようにするために有効であったか。

### (1) 全体(整美委員会)の様子

はじめに、「話し合いカード」を提示し、委員会がキャンペーンを行う例を説明した。生徒たちは、「話し合いカード」に示された三つの視点に沿って、提示された問題の中から「トイレのスリッパが散らばっている」という問題を取り上げ、目指す学校の具体的な姿を「トイレのスリッパがいつもきれいにそろっている学校」と設定した(資料1)。その後、課題を解決するために、整美委員会として何ができるかをグループに分かれて話し合い、「毎日、朝と放課

資料1 「話し合いカード」の活用例(整美委員会)

話し合いカード — B 班

委員会の特色にあった学校生活の問題  
トイレのスリッパが散らばっている。

→

目指す学校の具体的な姿  
(こんな学校にしたい)  
トイレのスリッパがいつもきれいにそろっている学校

どんな取組をすれば解決できそうですか?

◆委員会では、**やきやき毎日、枚数に比べて、スリッパをそろえる。**

◆個では(必要があれば)

- ・ 気付いたらすぐ。
- ・ 気が付かなくても、そろえる。

重点活動名

**さわやかスリッパキャンペーン**

話し合いの流れ  
①委員会の特色にあった学校生活の問題について発表する。  
②取り上げる問題を決める。(重要性、緊急性、可能性などを考えること)  
③どんな学校にしたいかを決める。  
④そのために委員会ではどんな取組をすればよいかを話し合う。  
⑤必要があれば、全生徒にどんな取組を打ち進めるかを話し合う。  
⑥重点活動の内容や名称、時期を集団決定する。  
⑦まとめと今後の確認



後にトイレのスリッパがそろっているかチェックする」ことにした。ここで、整美委員会がこの取組をすることによって問題が解決するかを問いかけ、生徒一人一人の協力が必要であることを確認した。そして、再度グループに分かれて話し合い、全生徒に個での取組として「トイレから出るときに、一人一人がスリッパをきちんとそろえる」「他のスリッパがそろっていなかったらそろえる」を提案していくことを決めた（資料2）。

振り返りカードから、学校生活の問題に気づき、目指す学校の姿を把握していることが読み取れ（図4）、「いつでもトイレのスリッパがそろっているような学校にしたいと思いました」という感想からも、理想と現実とのずれに気付いていることが分かる。さらに、振り返りカードから、よりよい解決方法を考えていたことが読み取れ（図4）、「これから解決できるようにがんばる」という感想からも、課題から具体的な取組へとつなげることができたことが分かる。

これらのことから、話し合いの視点を示した「話し合いカード」を活用してキャンペーンについての話し合いを行えるようにしたことは、生徒が、委員会の一員として課題を明確にとらえて活動できるようにするために有効であったと考える。

## (2) 抽出生徒A(整美委員会に所属する生徒)の様子

生徒Aは、グループでの話し合いで記録係を務めた。生徒Aは課題を解決するための個での取組として「ぬぐときは必ずそろえる」という意見を出した。振り返りカードでは、すべての項目（図4参照）で「とてもそう思う」と答えており、感想では、「あまりよく話し合えなかったけど、よいアイデアが出たと思う」と書いていた。このことから、話し合いの視点を示した「話し合いカード」を活用してキャンペーンについての話し合いを行えるようにしたことで、生徒Aは、委員会の一員として課題を明確にとらえて活動できるようになったと考える。

## 2 全生徒に委員会での話し合いの流れを示した「活動シート」を活用してキャンペーンについての内容を把握できるようにしたことは、生徒が、学校の一員として、課題を明確にとらえて活動できるようにするために有効であったか。

### (1) 全体(抽出生徒の在籍する学級)の様子

整美委員会、生活委員会では、話し合いの中で、どちらも「トイレのスリッパが乱れている」という問題を取り上げた。そのため、生徒評議会において、整美委員会、生活委員会合同の「美・スリッパキャンペーン」を行うことになり、整美、生活委員会が調整を行いながら「活動シート」を作成した（資料3）。

生徒たちは、各学級で配付された「活動シート」を見ながら委員長の全校放送を聞き、このキャンペーンが委員会ですどのように計画されてきたかを理解し、委員会と全生徒で協力して学校生活の問題を解決しようとしていることを理解した。そして、委員会から提示された個での三つの取組（資料3参照）の中から自分で協力できるものを選択し、それを選

### 資料2 第2回専門委員会の話し合いの様子(整美委員会)

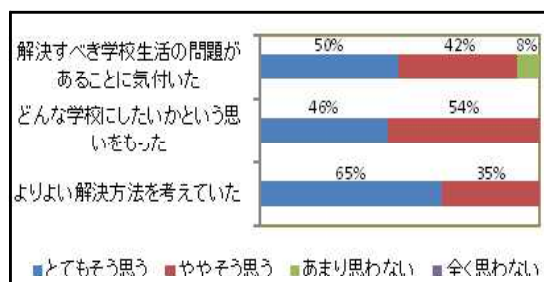


図4 第2回専門委員会の振り返りカードの集計結果(整美委員会)

### 資料3 「活動シート」の活用例(整美・生活委員会)

整美生活委員会 美・スリッパ キャンペーン (期間 1/10~1/12)

年 組 番 名( )

委員会の特色にあった学校生活の問題  
トイレのスリッパが乱れている

どんな学校にしたいか？

目指す学校の具体的な姿(どんな学校にしたい)  
トイレのスリッパがそろっている学校

どうやって変えるか？

●委員会では  
朝に放課後にトイレのスリッパを見まわりをしてそろえる。

●個では(一つ選択してのり付けてください)  
・一人一人がスリッパをそろえることを心がける。  
・自分のスリッパをそろえる。  
・トイレから出たら毎回トイレを掃除する。  
この取組を自分の取組として実行する。

●個の取組  
委員長の放送を聞いて、どんな問題を取上げて、どのような学校にしたいか、そのためにはどのような取組をいけるのかを、自分自身のこととしてとらえることができたか。

名前( ) 氏名( )

① ② ③ ④

択した理由を記述した（資料4）。

「活動シート」の記述から、キャンペーンを自分のこととしてとらえることができた生徒が多く、課題を明確にとらえることができたことが分かる（図5）。個での取組を選んだ理由について、「他のスリッパがそろっていなかったら、自分のだけをそろえるより他のスリッパもそろえる方がいいと思った」などがあり、課題から具体的な取組へとつなげることができたことが分かる。

これらのことから、委員会での話合いの流れを示した「活動シート」を活用してキャンペーンについての内容を把握できるようにしたことは、生徒が、学校の一員として、課題を明確にとらえて活動できるようにするために有効であったと考える。

## (2) 抽出生徒B(全生徒の中から抽出)の様子

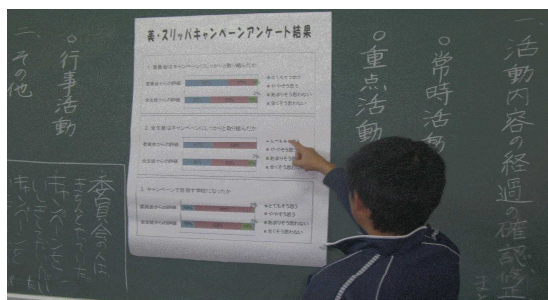
生徒Bは「活動シート」が配付されたとき、あまり興味を示さない様子であった。委員長の放送が始まると、「委員会の特色にあった学校生活の問題」「目指す学校の具体的な姿」「委員会と個での具体的な取組」に目を配りながら聞いている様子が見られた。「キャンペーンを自分のこととしてとらえることができたか」という項目では、「あまりそう思わない」を選択していたが、個での取組は「トイレから出たら、毎回ととのえる」を選択し、その理由について「毎回整えればスリッパはいつもきれいにそろおう」と記述していた。このことから、委員会での話合いの流れを示した「活動シート」を活用してキャンペーンについての内容を把握できるようにしたことで、生徒Bは課題を明確にとらえて活動できるようになったと考える。

## 3 委員会活動で自己評価と相互評価を基にした振り返りを行えるようにし、その振り返りを委員会と全生徒で共有できるようにしたことは、生徒が、委員会や学校の一員として、課題に対する取組を正しく見つけ、次の活動への意欲をもてるようにするために有効であったか。

### (1) 委員会活動における全体(整美委員会)の様子

生徒たちは、委員会と全生徒による自己評価と相互評価の集計結果のグラフ（図6）を比較し、共通点や相違点に着目しながらキャンペーンについて振り返った。それにより、委員会や全生徒の取組が全体的にはしっかりと行われていたが、意識の低い生徒もいたことを確認した。そして、委員会や学校の一員として今後どのように取り組んでいくとよいかを考え、発表した（資料5）。

資料5 第3回専門委員会の様子(整美委員会)



資料4 全校放送での様子(学級)

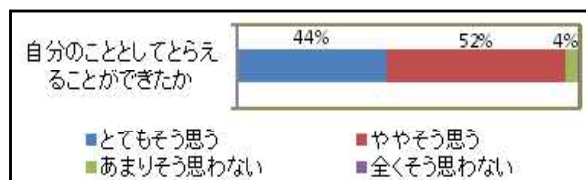


図5 「活動シート」の集計結果(全生徒)

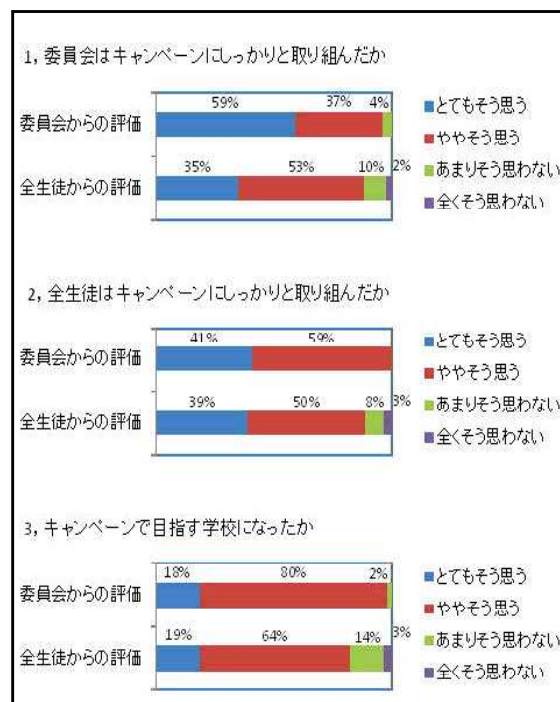


図6 美・スリッパキャンペーンにおける自己評価と相互評価の集計結果



振り返りカードから、キャンペーンの有効性を感じていることが読み取れる（図7）。また、「意外に効果があったと思う」「賞状とか作ったら、もっとみんながやる気になると思う」という感想からも、課題に対する取組の成果や課題について考えていることが分かる。



図7 第3回専門委員会の振り返りカードの集計結果(整美委員会)

これらのことから、委員会活動で自己評価と相互評価を基にした振り返りを行えるようにしたことは、生徒が、委員会の一員として、課題に対する取組を正しく見つめられるようにするために有効であったと考える。

### (2) 委員会活動における抽出生徒Aの様子

生徒Aは、提示された自己評価と相互評価のグラフを注意深く見ていたようであり、「わたしもよくやった(資料6)し、みんなもよくやってくれたと思う。キャンペーンをやってよかった」と言っていた。振り返りカードでは、キャンペーンの有効性についての項目(図7参照)で「とてもそう思う」と答えていた。このことから、委員会活動で自己評価と相互評価を基にした振り返りを行えるようにしたことで、生徒Aは、委員会の一員として、課題に対する取組を正しく見つめることができたと思われる。

### 資料6 生徒Aのグループの取組

「美・スリッパキャンペーン」  
チェックシート

場所: 2F北女子トイレ(食堂前)

担当: 整美・生活委員会

	10日 (木)	11日 (金)	14日 (月)	15日 (火)	16日 (水)	17日 (木)	18日 (金)
朝	△	○	○	○	○	△	△
帰り	○	X	○	○	○	○	△

○・・・全部どろっている △・・・少し乱れている X・・・乱れている

注：朝は整美委員会、帰りは生活委員会が担当した。

### (3) 振り返りの共有における全体(抽出生徒の在籍する学級)の様子

生徒たちは、委員長の全校放送を聞きながら、委員会が作成した委員会新聞(資料7, 8)に興味深く見ていた。「キャンペーンでは、みんなもこんなふうをやっていたんだ」「自分たちの委員会でもがんばってやってみよう」などの感想をもった生徒がいた。このことから、委員会での自己評価と相互評価を基にした振り返りを委員会と全生徒で共有できるようにしたことは、生徒が、学校の一員として、課題に対する取組を正しく見つめ、次の活動への意欲をもてるようにするために有効であったと考える。

### 資料7 委員会新聞(表)



### 資料8 委員会新聞(裏)



### (4) 振り返りの共有における抽出生徒Bの様子

生徒Bは、いつもよりも真剣に配布された委員会新聞を見ている様子であった。生徒Bの聞き取りからは、「キャンペーンをやると学校生活の問題が解決できる気がする。今回はあまり協力できなかったけれど、これからは自分もきちんとやっていきたい」と話していた。このことから、委員会での自己評価と相互評価を基にした振り返りを委員会と全生徒で共有できるようにしたことで、生徒Bは、学校の一員として、課題に対する取組を正しく見つめ、次の活動への意欲をもつことができたと思われる。

## 4 キャンペーン活動を終えて

キャンペーン活動の事前と事後において、「本研究で育てたい自主的、実践的な態度の具体的な姿」(p 2表1参照)に基づいて、委員会に所属している生徒及び全生徒の自主的、実践的な態度にかか

わる意識調査を行った。その結果（図8，9）の比較から、委員会に所属している生徒及び全生徒のすべての項目で意識の高まりが読み取れる。このことから、委員会活動にキャンペーン活動を設定し、課題を明確にして活動できるようにするための教師の適切な指導を行ったり、課題に対する取組を正しく見つめ、次の活動への意欲をもてるようにするための振り返りの工夫をしたりすることは、自主的、実践的な態度を育てるために有効であると考えられる。

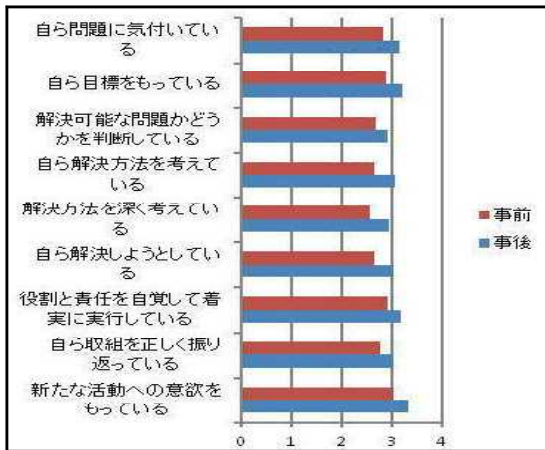


図8 委員会の一員としての生徒の意識の変容  
注：4段階評価での平均値の比較

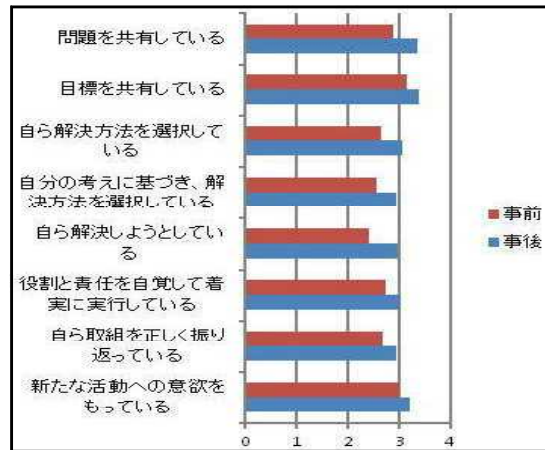


図9 学校の一員としての生徒の意識の変容  
注：4段階評価での平均値の比較

## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

- 委員会に所属する生徒に話合いの視点を示した「話合いカード」を活用してキャンペーンについての話合いを行えるようにしたり、全生徒に委員会での話合いの流れを示した「活動シート」を活用してキャンペーンについての内容を把握できるようにしたことで、生徒は、委員会や学校の一員として、課題を明確にとらえて活動することができた。
- 委員会活動で自己評価と相互評価を基にした振り返りを行えるようにし、その振り返りを委員会と全生徒で共有できるようにしたことで、生徒は、委員会や学校の一員として、課題に対する取組を正しく見つめ、次の活動への意欲をもつことができた。
- キャンペーン活動を設定し、教師の適切な指導や振り返りの工夫を取り入れたことは、自主的、実践的な態度を育てるために有効であることが分かった。
- 委員会から全生徒への活動に広げたことで、全生徒がキャンペーンに関心をもって取り組むことができ、自分たちの力でよりよい学校に変えていけるという自信になった。

### 2 課題

- 話合いを進める順序として、「委員会の特色にあった学校生活の問題点」を出発点に設定したが、委員会によっては「目指す学校の具体的な姿」を出発点にした方が話し合いやすい場合もあり、「話合いカード」の活用の仕方について、今後も研究を深めていく必要がある。
- 本研究では、委員会活動にキャンペーン活動を設定したが、これを生徒会活動全体に広げられる可能性もあることから、生徒総会及び生徒評議会、生徒会役員会などからの活動とのかかわりについて研究を深めていく必要がある。

### <参考文献>

- ・日本特別活動学会 監修 『新訂キーワードで拓く新しい特別活動』 東洋館出版社(2010)
  - ・岡田 純一 著 『教育的効果をもたらす評価の理論と実践』 学事出版(2003)
- (担当指導主事 右井 義人)